

茅ヶ崎市空家等対策計画の施策の進捗状況について

① 納税通知書を利用した空き家対策

市外在住の所有者の納税通知書に「住まいの相談窓口」のチラシを同封し、空き家の発生予防・適正管理等の相談窓口の周知を図った。

発送日：平成 30 年 5 月 1 日発送

発送数：8,000 通

② 空き家活用等マッチング制度

所有者		利活用	
相談	申請	相談	申請
4	2 * 1 件取り 下げ	10	2

空き家所有者と活用希望者を現場にて引き合わせを行った。空き家の状態、活用希望者の活動内容等では支障がなかったが、家賃の面で折り合いがつかず、マッチングに至らなかった。

③ シンポジウム「空き家の活用をみんなで考えてみよう」開催結果

「茅ヶ崎市の空き家対策便り vol.2」 別紙 2 参照

④ 空き家対策便りの発行

「茅ヶ崎市の空き家対策便り vol.1」 別紙 1 参照

「茅ヶ崎市の空き家対策便り vol.2」 別紙 2 参照

⑤ 市民まなび講座（茅ヶ崎市の空き家対策について）

日 付：平成 30 年 5 月 8 日

場 所：さがみ農協ビル第一会議室

対 象：茅ヶ崎地区民生児童委員協議会 委員 24 名

内 容：茅ヶ崎市の空き家対策について

意 見：アンケート結果からの考察

- ・空き家の相談を受けたことがある委員は 2 名。
- ・空き家の相談内容は、草木の繁茂・虫や動物の発生。
- ・担当地区内で空き家があることを把握している委員は 15 名。
- ・そもそも空き家の相談を民生委員が受けるべき相談なのか不明であるという意見が出された。
- ・空き家を使って学習支援ボランティアをしている委員がいた。

⑥ 「今の暮らし、これからの暮らしを考えよう」

日 付：平成30年6月21日（木） 11：00～11：30

場 所：松林公民館

対 象：地域包括支援センター「くるみ」による健康体操の参加者。

20名（女性：17人 男性：3人 年齢：60代～80代）

目 的：具体的にこれからの暮らしについて話しを進めていく上で、参加者の悩み等がある場合は市の制度の紹介や参加者の体験談等を引き出し、参加者の悩みを解決するとともに、知識の向上につなげる。

内 容：市の職員がファシリテーターとなり、参加者同士で今の暮らしとこれからの暮らしについて話し合った。

（出された意見や相談）

- ・リフォームに関する不安。
- ・ケア付きの住宅等への住み替え。
- ・空き家を所有していることの相談。
- ・家の耐震性の不安。
- ・道路が狭い等による防災の不安。
- ・わたしの覚え書き（茅ヶ崎市高齢福祉介護課が作成したエンディングノート）で、終活をすることで、今までの自分を見つめ直し、今後の自分を考えるきっかけとなるように伝えた。